

現代のランニングシューズにも使用されている 高い反発力と軽量性を両立したズームエア

NIKEを象徴する“MAX AIR”と共に知名度が高く、ストリートで人気の高い復刻スニーカーにも多用されているテクノロジーが“ZOOM AIR”だ。1994年に発売された軽量ランニングシューズ“AIR ZOOM LWP”で初採用された“TENSILE AIR (テンシルエア)”のアップデート版と伝えられている。多くのZOOM AIRはソールに埋め込まれ、構造を目にする機会は少ないが、基本的には薄いプレート状に仕立てたエアバッグと伸縮性の高い繊維で構成されている。そのエアバッグが着用の衝撃を吸収し、衝撃で変形した繊維が元に戻ろうとする力で反発力を生み出しているのだ。同じく反発力を念頭に開発されたTUNED AIRやSHOXと比べるとユニットが薄く、軽量性にも優れている。その特性から現在もパフォーマンス系ランニングシューズに用いられるだけでなく、バッシュ等にも採用されているのはご存知の通り。ここで紹介するAIR ZOOM FLIGHTをはじめ、AJ XIやFOAMPOSITE ONEにもZOOM AIRが搭載されていた。

一般的にZOOM AIRは反発力に加え、柔らかい履き心地が特徴と評されている。90年代後半のハイテクスニーカーブーム時には、ZOOM FLIGHTやFOAMPOSITEのフェイク（偽物）がそれなりに出回り、その真贋を見分ける手段としてZOOM AIR特有の履き心地を確かめていたファンも居た程だ。そして現代において、最もZOOM AIRの特性が感じられるスニーカーがSB DUNKになるのだろう。通常のDUNKとは異なり、SB DUNKが採用するインソールのヒール部には半円形のZOOM AIRが埋め込まれている。実際にインソールを剥がすと、半透明のポリウレタン素材にガーゼのような繊維が詰まったユニットが確認できるはずだ。通常のDUNKとSB DUNKの両方を愛用しているスニーカーヘッズであれば、その履き心地に明確な違いがある事を体感しているだろう。DUNKとSB DUNKには様々なディテールの違いがあり、全てとは言えないものの、両者の履き心地の違いにはZOOM AIRの影響が少なくないのだ。

AIR ZOOM FLIGHT
RED

Release year: 1995
Style code: 130248-112
参考商品

